

「アジアNo.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」(骨子案) ~ 「国際戦略総合特区」に対する愛知からの提案 ~

総合特区の目指す目標

アジア最大・最強の航空宇宙産業クラスターを形成する

- 材料を含む研究開発から設計・開発、飛行試験、製造・販売、保守管理までの一貫体制を整備
- B787の量産化への対応、MRJの生産・販売の拡大などにより、航空宇宙産業の世界シェアを拡大

【数値目標】

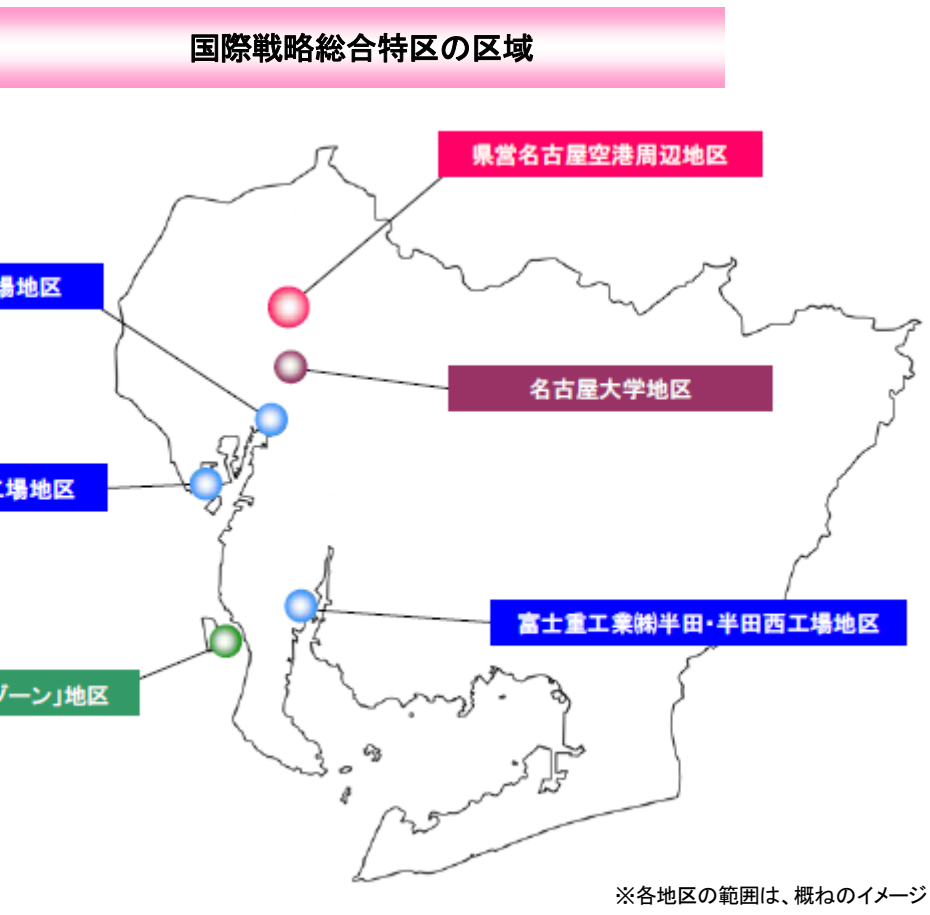
中部地域(愛知県を中心とした5県)の航空機・部品生産額
 約4,000億円(平成22年) → 5,200億円以上(平成27年) ※年率5%以上の伸び

なぜ、「航空宇宙産業」なのか ~日本の成長に航空宇宙産業の振興が必要な理由~

- 航空機産業は中長期的に確実に拡大する成長産業
- 航空宇宙産業は日本の強みを発揮でき、国際競争の最前線で伍していける分野
- 航空宇宙産業は、裾野が広く、技術波及効果が大きい先端技術集約型産業 など

どの地域が担うのか ~愛知地域のポテンシャル~

- 我が国最大の航空宇宙産業の集積地
 - ・日本の航空機・部品生産額の約5割、航空機体部品では7割以上を生産
 - ・日本の主要機体メーカー(三菱重工業、川崎重工業、富士重工業)の生産拠点が集中立地。B787の日本分担率35%を当地域が担う。
 - ・国産初の小型ジェット旅客機MRJ(三菱リージョナルジェット)は当地域で開発・製造・組立(三菱航空機、三菱重工業)
 - ・航空機の機体軽量化のキーテクノロジーであるCFRP(炭素繊維複合材)をボーイング社独占的に供給する東レをはじめ、素材、部品、工作機械等のサポーターインダストリーも多数集積 など
- 関連する研究開発・人材育成機能も集積
 - ・(独)宇宙航空研究開発機構の「JAXA名古屋空港飛行研究拠点」、三菱重工業の「技術試験場」
 - ・東レの名古屋事業場内「アドバンスド・コンポジットセンター」
 - ・名古屋大学の「航空宇宙工学専攻」や「複合材工学研究センター」 など
- 産・学・官の連携体制がすでに構築
 - ・(社)中部航空宇宙技術センター(C-ASTEC)(平成5年9月設立:中経連、愛知県、岐阜県、名古屋市、地域企業等)
 - ・「航空宇宙産業フォーラム」(平成20年4月設立:中経連、C-ASTEC、三菱重工業名古屋航空宇宙システム製作所、川崎重工業航空宇宙カンパニー、航空機部品加工中堅・中小企業、名古屋大学、中日本航空専門学校、愛知県、岐阜県、三重県、名古屋市、中部経済産業局)



※各地区の範囲は、概ねのイメージ

●日本の戦略的な航空宇宙産業振興の最適地は、「愛知」

●総合特区により、日本の新たな成長をこの地域が担う「必然性」“大”